

題材デザイン FIRST STEP —小学校図画工作科—

1 題材デザインは何のため？

- 学習指導要領では、資質・能力を育成するため、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
- 「指導と評価の一体化」の観点から、題材の指導と評価の計画を作成することが求められています。
- 教師が児童に身に付けさせたい力を明確にし、意図的・計画的に授業づくりを行うことができます。
- 児童が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができます。



2 図画工作科における「主体的・対話的で深い学び」をどのように実現していくか？

主体的な学び

- ◇ 題材への興味・関心を高められるようにする
- ◇ 見通しをもたせるための導入を工夫する
- ◇ 試行錯誤したり、粘り強く取り組んだりできるように材料の検討や環境整備等を行う
- ◇ 学習の振り返りをしたり、学習のめあてを改めて確認したりさせる場面を設定する など

自分の学びや変容を自覚し、次につなげる

対話的な学び

- ◇ 対話の対象や方法を考える
 - ・ペア、グループ、全体で話し合う
 - ・感じたことを伝え合う
 - ・表し方の疑問などのやりとりをする
 - ・みんなで考え、アイデアを出し合う
 - ・材料や作品、自分と向き合う など

自分の考えを広げたり、深めたりする

深い学び

- ◇ 教師が指示しすぎず、児童自身で考え、深めていけるように授業を構成する
- ◇ 児童や学校の実態に応じ、多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていく
- ◇ 児童の発言や行為を見取り、児童の気づきを促す声掛けをしたり、気づきに共感したりする など

鍵となるのが、「造形的な見方・考え方」を働かせること

3 題材デザインの手順

はじめに、図画工作科の内容の構成、授業時数、各学校で作成した年間指導計画を確認しましょう。

【内容の構成】

「A表現」 (1) 発想や構想 ア 造形遊びをする活動 イ 絵や立体、工作に表す活動 (2) 技能 ア 造形遊びをする活動 イ 絵や立体、工作に表す活動	「B鑑賞」 (1) 鑑賞 ア 鑑賞する活動
【共通事項】(1) ア 形や色などの造形的な特徴を理解する イ 自分のイメージをもつ	

【授業時数】

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
年間授業時数	68	70	60	60	50	50
週あたり時数	2	2	1.7…	1.7…	1.4…	1.4…

※一単位時間は、四十五分とする

「A 表現」及び「B 鑑賞」全体の内容の授業時数の配分については、各内容を十分に関連させ、内容に偏りのないように全体の配当を考えて計画を立てます。「絵や立体」と「工作」の授業時数が、およそ等しくなるように計画することが必要です。



① 題材を通して児童に身に付けさせたい資質・能力を明確化し、題材の目標を作成します。

※作成の際には、学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえること、また、児童の実態、前題材までの学習状況等も踏まえることが大切です。

② 題材の評価規準を作成します。

※評価規準とは、目標の実現の状況を判断するよりどころを表現したものです。

③ 「指導と評価の計画」を作成します。

※①、②を踏まえ、評価場面や評価方法を計画します。どのような評価資料(児童の反応やワークシート、作品等)を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えた、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりします。

④ 授業を行います。

※③に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげます。

⑤ 観点ごとに総括します。

※集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A、B、C)を行います。

このような手順を踏まえ、どのような題材にするか、どのような授業の流れにするか、④の授業を行う際のポイントについて、次のページから、具体例を基に説明します。



4 授業を行う際のポイント

題材設定

題材とは、目標及び内容の具現化を目指す「内容や時間のまとまり」のことです。児童の資質・能力を育成するために、児童が興味や関心をもち、主体的に取り組むことができるような題材を、教師の創意工夫を生かして、次のようなポイントで設定します。

児童の実態を踏まえ、育てたい資質・能力を明確にする



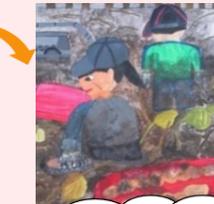
「新聞紙となかよし」(造形遊びをする活動)
材料に進んで働き掛け、思いのままに発想や構想を繰り返し、手や体全体を働かせ、活動を工夫してつくる造形遊びをする活動を設定しました。学級の児童の実態を踏まえ、育てたい資質・能力を明確にし、題材を設定します。

他教科等との関連を図る



「お話のさくしゃになろう」(国語科)
国語科「書くこと」の単元で、図画工作科でつくった作品を登場人物としたお話づくりに取り組みました。低学年においては、図画工作科の時間につくったものを他教科等の時間に活用するなど、教科等間の関連を積極的に図るようにすることが求められています。

題材や題材名を工夫する



泥だらけになって、レンコン収穫をしたことを表したいな。

収穫した大きなレンコンが心に残ったよ。



レンコン畑の広がる素晴らしい〇〇平野を伝えたい。

「レンコン収穫体験を絵に表そう」(絵に表す活動)

題材や題材名を工夫することも大切です。例えば、題材は「表したいことを選ぶことができるもの」、「夢や願いを思い描くことができるもの」、題材名は「表現する喜びを味わい、造形的な創造活動を楽しもうとする意欲がわくものにする」などが考えられます。本題材は、地域の特産物の収穫体験を通して感じたことから、自分の表したいことを児童自身が見付け、絵に表しました。豊かな体験は、豊かで確かな表現につながります。様々なコンクール等ありますが、図画工作科の学習は造形的な創造活動を目指していることを踏まえ、具体的なものの形や色などを単に再現することを強いるものではないことに留意する必要があります。

事前準備

児童の資質・能力を十分に高めるために、事前に材料や用具、場所などについて考え、準備する必要があります。材料を家庭で用意する場合は、早めの連絡をしましょう。

各学年で取り扱う材料や用具の例

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
【材料】 土・粘土・木・紙・ 【用具】 クレヨン・パス はさみ・のり 簡単な小刀類	【材料】 木切れ・板材・釘 【用具】 水彩絵の具・小刀・金づち 使いやすいのこぎり	【材料】 針金 【用具】 糸のこぎり

場所や場の設定を考える



「ウッドランドをつくろう」(立体に表す活動)

材料や用具については、児童のそれまでの経験に配慮するとともに、題材の内容や指導のねらいによって、種類や量を考え、児童が適切な扱いに慣れるようにします。場所については、教室、図工室、空き教室、体育館、庭など様々な場所で行うことが考えられます。材料や用具の置き場所や机の配置についても、児童の動きを想定して場の設定を考えます。本題材は、多くの木片と金づち・釘を使うため、場所を「広いホール」、場の設定を「児童全員が取りやすく、活動の全体像がつかみやすい中央に材料を置く」ように工夫しました。

導入

「今日からこれをつくります。」と教師が一方的に提示するのではなく、児童の思いを膨らませる手立てが必要です。例えば、「たくさん材料を用意して、出会わせ方を工夫する」、「自作の物語を聞かせて、ストーリー性をもたせる」、「わくわくするような動きのある仕組みを見せる」等が考えられます。また、教師が何を見せ、何を見せないかについて考えることが大切です。

導入における教師の自作の物語を聞かせる



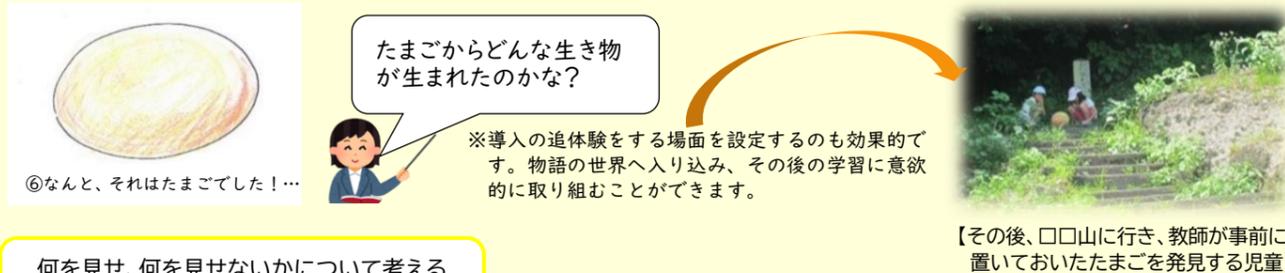
①今日も一日が終わり、□□山に日がしずんでいます。きれいな夕焼けです。

②だんだん辺りが暗くなってきました。お空の高い所に、お月様がぼつり。

③シューーッ！！流れ星が…！

④次の日。子供たちが□□山に行ってみると…

⑤何やら光のものがありました。近づいてみると…

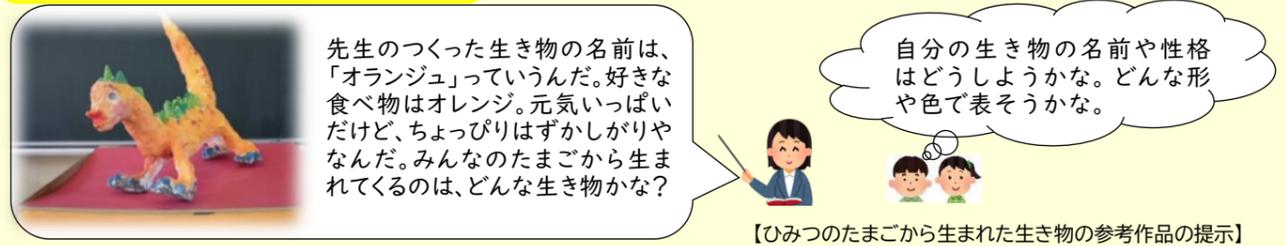


たまごからどんな生き物が生まれたのかな？

※導入の追体験をする場面を設定するのも効果的です。物語の世界へ入り込み、その後の学習に意欲的に取り組むことができます。

【その後、□□山に行き、教師が事前に置いておいたたまごを発見する児童】

何を見せ、何を見せないかについて考える



先生がつくった生き物の名前は、「オランジュ」っていうんだ。好きな食べ物はオレンジ。元気いっぱいだけど、ちょっぴりはずかしがりやなんだ。みんなのたまごから生まれてくるのは、どんな生き物かな？

自分の生き物の名前や性格はどうしようかな。どんな形や色で表そうかな。

【ひみつのたまごから生まれた生き物の参考作品の提示】

教師が何を見せ、何を見せないかについて考えることは大切です。必ず見せなければならないことは、安全に関わることです。カッターやのこぎりなどの刃物を使う場合は、具体的に使い方を見せる必要があります。参考作品については、見せることで見通しをもつことができるという良さがありますが、児童の発想や構想する機会を奪ってしまわないように、慎重に考える必要があります。

児童の見取り

一人一人が何を感じ、何を考えているのか、児童の表情、しぐさ、言葉、つくっている作品などから、児童の思いを汲んで、共感的な声掛けをしていくことが大切です。また、児童の様子を捉え、指導に生かしたり、記録に残したりします。

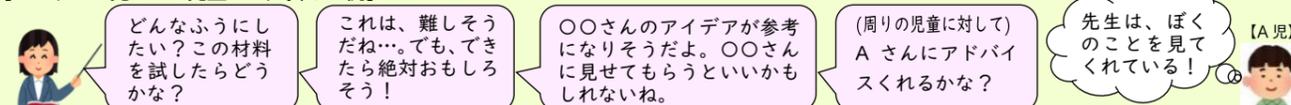
共感的な声掛け

児童の活動の様子を丁寧にしていると、一人一人の工夫や変化を見付けることができます。「さっきより大きくしたんだね！」、「先生には思い付かなかった！」等、具体的に認める声掛けをすることで、児童は活動をさらに深めていくことができます。うなずくだけで伝わることもあります。

声掛けのタイミング

児童がじっとして活動が止まっていることがあります。児童の様子に目を向け、声に耳を澄ませ、深く考えこんでいるのか、行き詰まっているのかを捉えることが重要です。深く考えこんでいる場合は、思考力や判断力が育っている時間です。そっと考えさせておきます。しかし、行き詰まっている場合は、様子を見ながら声掛けをする必要があります。

【つまづきが見られる児童への声掛けの例】



どんなふうになりたい？この材料を試したらどうかな？

これは、難しそうだね…。でも、できたら絶対おもしろそう！

〇〇さんのアイデアが参考になりそうだよ。〇〇さんに見せてもらうといいかもしれないね。

(周りの児童に対して) Aさんにアドバイスをくれるかな？

先生は、ぼくのことで見ている！

【A児】

評価の詳細については、佐賀県教育センターHP「[学習評価の進め方](#)」及び「[学習評価 FIRST STEP](#)」を御参照ください。



振り返り

授業の最後、「片付けが終わった人から休み時間です。」ということもありますが、振り返りの場を設定することで、児童が自分の学びや変容を自覚することができます。

めあてに沿った振り返り

授業の終末に、振り返りの場を設定し、めあてに沿って、本時の振り返りをを行います。自分の学びや変容を自覚するとともに、友人のよさに気付くことにもつながります。

余韻を残す

授業や題材の終末などで、児童が振り返りを書いている時間に、写真に撮った活動の様子を電子黒板に提示したり、絵を黒板に貼ることで、自然に鑑賞したりする等、余韻を残して終わることも考えられます。

鑑賞の環境づくり

掲示板だけではなく、踊り場の隅、壁やフェンス、廊下の上部の空間を生かしたり、児童が作品に合った展示場所を見付けたりすることが考えられます。また、地域の施設等への展示、写真や動画での紹介等、多様な方法が考えられます。展示することが児童の喜びにつながり、図画工作科の学習の意味や価値を広く伝えることができます。

共同して
作りだす活動

学習指導要領解説 図画工作編において、『第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 1(5)第2の各学年の内容の「A 表現」の指導については、適宜共同して作りだす活動を取り上げるようにすること。』と示されています。



「卒業制作の共同版画『ふるさとのよさを伝えよう～〇〇の宝』」

共同して活動することは、様々な発想や構想、アイデア、表し方などがあることに互いに気付き、表現や鑑賞を高め合うことにつながります。みんなで考え、アイデアを出し合って活動する中で、対話が生まれ、みんなと共につくりだす喜びを味わうことができます。そして、互いのよさや個性などを認め尊重し合う姿が生まれ、豊かな人間関係の構築へつながっていきます。

題材設定

事前準備

導入

児童の見取り

振り返り

共同して
作りだす活動

以上のような「授業を行う際のポイント」を意識しながら授業を行い、題材を通して児童に身に付けさせたい資質・能力の育成を目指していきましょう。

活動や作品をつくりだすことは、自分にとっての意味や価値をつくりだすことであり、同時に、自分自身をもつくりだしていることであるといえます。このことを心に留めて、児童一人一人の思いを大切にしたい指導の工夫や声掛けを考えていくことが大切です。

